

平成26年度第2回徳島県地域医療総合対策協議会【議事録】

【開催要領】

- 1 日 時 平成26年10月28日（火） 午後7時～午後7時40分
 - 2 場 所 徳島グランヴィリオホテル 1階 ダイヤモンドルーム
 - 3 参加者 委員29名のうち26名出席
-
-

【会議次第】

- 1 開 会
 - 2 議 事
 - (1) 地域医療介護総合確保基金にかかる県計画（案）について
 - (2) その他
 - 3 閉 会
-
-

【議事概要】

■議事（1）地域医療介護総合確保基金にかかる県計画（案）について

資料1

○県医療政策課地域医療・鳴門病院担当課長補佐が説明。

【委員】 全国各県から事業提案がある中、本県においては要望額21.3億円のうち83%の17.8億円という高い事業採択率を得たということであるが、27年度に関しても、介護部門が基金事業に加わる中で、26年度と同じような数値で採択していただけたと考えているか。

【事務局】 まず、厚生労働省の概算要求では、消費税を10%に上げるか否かの判断が年末に持ち越されている影響で、要求金額が掲載されずに制度の要求という形となっている。

26年度には904億円が予算化されている状況の中で、消費税由来でない金額が約360億、残りのうち400億円から500億円が消費税半年分である。26年度に国が財源にできるのは消費増税分のうち半年分であるが、27年度はそれが通年分となり、400億から500億の倍額が財源として加わると推測している。

26年度には当県は17.8億円という高い率で配分していただけているが、27年度は新たに介護事業が加わることとなる。介護部門はソフト事業が多く、ハード事業はそこまで出てこないと考えているが、ふたを開けてみないとわからない。26年度にできるだけ近づけるよう政策提言や要

望を行っていきたいと考えている。

阿南共栄病院・阿南医師会中央病院の統合事業や日赤関係事業は、基礎的な要因に係る事業とは別に、政策的要因に係る事業として整理してきたので、27年度に向けては別に配分を頂けるようにしたいと考えている。

ご質問の答えとしては、27年度に関しても26年度の金額を維持できるよう努力していきたい。

【委員】 「医療従事者養成確保事業」では医師の地域偏在や診療科偏在による医師不足の解決が課題とされている。その中で、「ドクターバンク強化システム構築事業」の注意書きとして「シニア医師による応援診療の支援システム構築等」とある。現在、上那賀病院は色々な病院に支援をしていただいているのだが、しっかりとした応援診療の支援システムを構築して、依頼すれば支援していただけるという事業なのか。

【事務局】 「ドクターバンク強化システム構築事業」とは既存事業の強化であり、これまでの仕組みとしては県医師会に依頼をして、空いた時間に応援診療をしていただくというものである。

これまでの応援診療というのは、1日単位や週3日などの日数単位で応援に行っていたが、医師の都合に合わせて、午前中のみ、夕方のみなどという細かな供給が新たに可能になると考えている。この時間帯なら可能という時間を医師にエントリーしていただいて、ニーズに合わせたきめ細やかな対応を行っていききたい。そういった意味では、これまで以上に有効に活用できる可能性はあるが、新たに人を確保して派遣していくという事業ではない。

【委員】 現在でも、週何日か専門分野の先生に来ていただきたいという要望があれば、県医師会に申し込んで来ていただけるような仕組みがあるということか。

【事務局】 そのとおりで、マッチングが合えばドクターバンクが成立するということになっている。

【委員】 県医師会としても、可能な範囲で要望にお応えしたいと考えている。なかなか空いている医師も少ないが、少しずつ改善を図りながら要望にお応えできるよう努力したい。

【委員】 県計画では万遍なく予算を配分しているという印象があるが、その中でも「地域医療情報連携システム構築事業」は、4億7千400万円という比較的多額の資金が配分されているのは、明確な目標等があってこのようになっているのか。

【事務局】 県内全域を網羅し、特定の診療科に偏らない汎用性のあるシステムを構築することが目標となる。

これまでの病診連携システムや病院間ネットワークシステムは、サーバーの設置費用に数億円を要しており、汎用性がなく次の更新時期を迎えるというシステムも多かった。現在は、クラウドサービスを利用することで、これまでより非常に安価にできる方法もあるので、そういった点も踏まえて、県内の中核病院間や中核病院と診療所とのネットワークを繋ぎ、患者さんにもメリットがあるようなシステムを構築していきたい。

そのような全体構想の上で、協議会を立ち上げて基本設計を行っていくことになる。今後、正確な見積を取っていくので、この額で十分か余るのかは不明ではあるが、第1回の協議会を行うにあたって大体の計画額を見極めていきたいと考えている。

【委員】 県西部では、県の補助によりあわ西部ネットワークというシステムを立ち上げ、三好病院、三野病院、半田病院、県西部の診療所とネットワークを構築しているが、加入者が非常に少ないという現状もある。システムを立ち上げたが、十分に機能していないという現状はあるので、徳島県全体としてそのようなシステムがあるというのは非常に良いと思うが、いかに機能させてゆくのかも考えていただきたい。

【事務局】 西部のネットワークは26年2月から始まっているが、運用状況などを確認し、いかにすれば有効に活用していただけるかを考えていきたい。

【委員】 26年度から27年度への繰越対象となる事業は、これから協議して選定していくのか。

【事務局】 最初から繰り越すことが前提ではなく、最終的に施設整備や備品購入などが発注しても間に合わなかったというような場合に、国との個別協議となる。現在の段階では、26年度事業として考えていただければと思う。

【委員】 発注して間に合わなかった場合も、繰越事業として認められるのか。

【事務局】 そういった場合も可能となる。

■議事（2）その他

【事務局】 27年度事業に関しては、年明けから国に対して総枠の金額の提示をしていくものと考えている。26年3月に各団体から集めた26年度から28年

度の提案事業の他にも、提案されるものがあれば、27年度の事業として考えていきたい。

---了---